

## AI多言語ロボットを活用したIoT化を日台両市場で進めるハタプロ

株式会社ハタプロはAI、IoTに必要なとされるソフトウェアとハードウェアの両方を手掛けるベンチャー企業である。AI多言語ロボットの「ZUKKU」は手のひらサイズのマーケティング支援ロボットとして日本において、訪日外国人観光客の多い百貨店や量販店での導入が進んでいる。2017年には台湾のベンチャー企業であるY5Busと独占契約を締結、Y5Busのもつ利用者情報と「ZUKKU」のシステムを組み合わせた訪日外国人向けのマーケティングサービスを展開している。今回は、株式会社ハタプロの伊澤代表取締役から日本や台湾でのビジネスの状況、今後の展望についてお話を伺った。



株式会社ハタプロ  
伊澤諒太 代表取締役

### ―事業内容について

当社はソフトウェアの受託開発を手掛ける会社として2010年に設立されました。2014年からハードウェア関連のビジネスも展開するようになり、システムとデバイスの両方を手掛ける会社として活動してきました。2017年には100%子会社の「ハタプロ・ロボティクス株式会社」を設立し、ロボット事業も展開するようになりました。フクロウ型ロボットの「ZUKKU」は2017年に開発されたマーケティング支援ロボットです。本体には自社開発のAIチップと内蔵カメラが搭載されており、会話の中でロボット自身が学習していく自然言語処理技術とカメラに映る人をロボットが自動で認識・判断する画像認識技術によって自動対応が可能となっています。「ZUKKU」は多言語対応なので、店舗経営者は「ZUKKU」を設置することにより外国語を話すスタッフを増やすことなく売り上げを伸ばすことができます。また「ZUKKU」は、クラウドを通じて購買データ(時間帯、購入店舗、年齢層)を収集・分析することができ、店舗の省力化や販促にも活用できます。

### ―台湾でのビジネスについて

当社は2012年に一度台湾市場に参入したことがあります。当時はソフトウェアビジネスの延長としてスマホのアプリやファッション関連のウェブメディアも手がけており、中華圏における若

者文化の発信地として台湾を活用したいと思っておりました。また、当時はGoogleがアジアの戦略拠点を台湾に置くなど、IT企業としてビジネスがしやすい環境や制度が整っているということもあり進出を決めました。結局、アプリやウェブメディアの事業はクローズしたものの、現地のものでづくり企業とのつながりができたことが、その後、ソフトウェアとハードウェアの両方を手掛けるきっかけになりました。2014年には政府系の財団法人工業技術研究院(以下、ITRI)と業務提携することになり、そこからハードウェア関連のビジネスが加速するようになりました。ソフトウェアとハードウェアの両方の開発を行っていくうちに、ただ単に開発を請け負うのではなく、自社で独自のブランドを作りたいと思うようになりました。そこで開発されたのが冒頭で紹介した「ZUKKU」です。小型のAIロボットは当社としても全く新しい取り組みだったため、スピード感が大事だと思いました。そこでベンチャーとはいえ政府の後押しもあり、スピード感のあるY5Busと提携することになりました。Y5Busは台湾のITRIより生まれたベンチャー企業であり、観光情報アプリの「Y5Bus」を手掛けています。「Y5Bus」は、乗客が「Y5Bus」のWi-Fiルーターが設置されたバスに乗り、アプリをダウンロードまたはブラウザからログインすると無料でWi-Fiを利用することができるサービスです。「Y5Bus」はWi-Fiサービスを提供するだけのものと勘違いされてしまうことが多いですが、バスの位置情報やアプリ利

## 日本企業から見た台湾

.....

ユーザーのログイン情報を利用してアプリで観光情報を取得できる点に特徴があります。台湾のユーザーの多くがアプリとして「Y5Bus」をスマホに入れているので、ユーザーが日本に旅行した際には、アプリを立ち上げるだけでお店のクーポンや観光情報を取得することができます。現在「Y5Bus」に表示されるクーポンや観光情報は人手とAIのハイブリッドで提供されています。いずれはAIだけで自動化していく予定です。年内にはITRIや現地当局と協力し、台湾の有名な観光地である澎湖諸島に「ZUKKU」を配置する予定です。台湾の国内旅行客をターゲットとしつつ、日本人観光客やその他の外国人観光客にも利用してもらいたいと思います。

### —台湾と日本のビジネスの違いについて

台湾でビジネスをして感じたのは日本と比べて物事の進むスピードが非常に速いということです。また、会社の規模や実績の有無に関わらず、面白いと思うアイデアに対しては声をかけてくれるところも日本とは異なると感じました。この先、若くて技術力のあるベンチャー企業が、台湾で製品やサービスの実績を積んでから、中華圏やその他のマーケットにチャレンジするといったケースが増えてくるかもしれません。また台湾政府がオープンイノベーションを推進していることもあり、今後は日本と台湾のベンチャー企業同士の提携のみならず、日本のベンチャー企業と台湾の大企業、台湾の大企業と日本のベンチャー企業の連携が加速していくかもしれません。

### —今後の日本でのビジネスについて

日本市場においては、バス会社向けに広げていくというよりは、台湾でのユーザー数が多いこと、そして日常的にアプリが使われているという「Y5Bus」の優位性を活かして観光地からビジネスを広めていこうと考えています。現在台湾から日本への訪日観光客数は年間約400万人にのびますが、そのほとんどが日本国内の定番の観光スポットに向かっているように思われます。「Y5Bus」を日本で立ち上げれば、日本でも無料でWi-Fiを使えることができ、個人に合った情報がピックアップされた状態で表示されるので、台湾人にとってはより観光がしやすくなると思

ます。また、「Y5Bus」のテクノロジーを移動インフラとしてのバスだけではなく、移動の前後にも導入したいと思います。具体的には「Y5Bus」のテクノロジーを移動先の店舗にも展開し、その店舗に設置された「ZUKKU」を通じて観光情報を発信するといったものです。ベンチャー企業ならではのスピード感、台湾の政府関連のアプリであるという優位性を活かしてこれからも積極的にインバウンドマーケットを開拓していきたいと思います。

### —ありがとうございました。



### 株式会社ハタプロの基本データ

会社名	株式会社ハタプロ
代表者	伊澤諒太(代表取締役)
設立	2010年
資本金	非公開
事業内容	ソフトウェアの受託開発、ロボット・車載機器・電子機器の開発及び販売

注)2018年3月の情報による  
出所)公開資料及びヒアリングよりNRI整理